

K S K P

連盟ニュース No.13

特定非営利活動法人尼崎市身体障害者連盟福祉協会

連盟第二回大会を行いました

梅雨前の6月1日に尼崎市教育・障害福祉センター4階視聴覚室で第2回連盟大会を開催しました。障害者自立支援法が施行されてからというもの、外出の機会を減らしている人が多い中、出席者が集まるのかどうか不安はありましたが、当日になると思った以上に出席者が集まり、記念品として出したお茶がなくなるほどでした。来賓は行政を始め市議会議員も出席をいただき、うち一人は議事を熱心に傍聴され、学習会まで見て行かれました。

寺岡事務局長の司会により進行され、堀口副理事長の開会宣言、岩倉理事長のあいさつ、来賓のあいさつおよび紹介のあと、奥山副理事長が議長になって議事が進められました。発言は活発とはいえませんでした。粛々と進められ、賛成の拍手をいただいて無事議題を終えました。

つづく学習会では尼崎市障害福祉課の担当者より7月からの障害者自立支援法の改正について丁寧な説明があり、出席者は熱心に聞き入っていました。

最後にこの大会で勇退する岩倉理事長の退任あいさつがあり、それを受けて新しく連盟理事長となる伊東新理事長の力強い就任あいさつを兼ねた閉会宣言で終わりました。

この大会より、新しい役員体制でスタートを切りました。伊東新理事長のもと、役員一同がんばって参りますので皆様のよりいっそうのご支援をお願いいたします。



退任した岩倉前理事長と就任した伊東新理事長

当たり前前に生活をしていける街をめざして

理事長就任にあたり

N P O 法人尼崎市身体障害者連盟福祉協会

理事長 伊 東 勇

2008年6月から当協会の理事長に就任させていただきました肢体部の伊東 勇です。前理事長同様よろしくお願いいたします。

今般 私たち障害者が取り巻く社会情勢は厳しいものがあります。国においては、財政再建の名の下、福祉予算が大幅に見直され、福祉サービスが応能負担から応益負担になり、私たち重度障害者が当たり前前の生活をしていくためには、多くの福祉サービスが必要となります。自己負担も大きくなります。買い物などの日常生活に使う外出支援や通院に使う通院支援が使えにくくなっている。また、時間数も減らされるケースも出ています。

県においても福祉医療の一部負担金の導入など福祉予算が削減されました。

市議会に出していた市内11障害者団体が出していた『障害者福祉施策についての陳情』は6月24日に審議未了で終わり採択されませんでした。私たち障害者の切実な願いが市会議員の方には理解がされなかったことは残念でした。

これからも私たちの願いを、多くの市内障害者団体と手を取り合って、市民の方々や市議会議員の方々などに、理解をして頂く行動にみなさんのご参加をお願いします。

若い重度障害者が、仕事に就くことが出来ない現状があります。これからの人たちを応援していきたいと考えています。

また、楽しい行事の企画も共に考えていきましょう。

全ての人たちが、生きがいを持って住み慣れた街で安心して安全で暮らせる尼崎市に！

2008～2011年度 役員体制

| | | | |
|------|------|-------|------|
| 理事長 | 伊東 勇 | 事務局 | 寺岡 睦 |
| 副理事長 | 南本幸夫 | | 瀬川祐一 |
| | 堀口 隆 | 会計 | 高尾絹代 |
| | 奥山洋介 | | |
| 監事 | 広瀬徹 | 大石甚三郎 | 岩倉辰臣 |

私たちの生活を追い詰めないで!

議会への働きかけと行政との取り組み

市内の障害者関連11団体は連盟大会を目前に控えた5月末に障害福祉課及び医療福祉課との話し合いを持ちました。

障害福祉課に対しては、地域生活支援事業、県の補助ストップへの対応、小規模作業所の移行などについて考えを聞きました。地域生活支援事業に関しては特に移動支援事業が十分に社会参加の目的を果たしていないことを数字をあげて説明しました。しかし、行政は尼崎市には予算総額が厳しい状態の中で新たな軽減策を取るのには難しいことを述べていました。県からの補助金打ち切りについては、予算案審議に入る直前の通告に対して県に抗議はしたが、カットされた分の予算の補填をどうするか、検討中とのことでした。小規模作業所の移行については法内施設への移行を支援していく姿勢には変わりはないものの、やはり厳しい財政事情の中、新たな支援策は考えていないとのことでした。

福祉医療課に対しては、精神障害者へのアンケート集計の結果をていねいに説明しました。福祉医療の対象範囲を2級に広げることについては、行政も必要性は認識しているものの厳しい財政状況もあり、当局内での同意を求めていくという返答でした。

一方、議会に出していた「陳情第6号 障害者福祉施策についての陳情」が審議未了で終わってしまい、残念な結果になりましたが、陳情書の願意を汲み取った意見書が全会派で一致できないか検討していくということになり、思いが少し届きました。



視力部大正琴グループ「アマリリス」、うず潮まつりに参加

連盟はこれまでも障害者が当たり前生きていける街づくりに取り組んで参りました。昨年度は一つの方法として稲葉荘コンサートを開催し、地元住民にも参加を呼びかけました。それがきっかけとなって、大庄コミュニティルームのリニューアルを記念して3月15日に行われた「うず潮まつり」に参加しないかとの呼びかけをいただき、視力部の大正琴グループ「アマリリス」が参加してきました。普段おつきあいのない地域との交流の場をいただいて、一同張り切って参加してきました。次に参加者からの報告を載せます。

「うず潮まつり」に参加して 視力部 田淵 幸子

私たちは、視覚障害者の大正琴合奏グループ「アマリリス」でございます。平成15年の春から視力部有志10名で大正琴を習い始めました。一人では何もできません。多くの方々に支えられながら月2回練習を続けて参りました。今回は広瀬様のお口添えがございまして3月15日に「うず潮まつり」で大正琴の演奏が決まりました。発表のチャンスをいただき嬉しく、皆揃って喜び、感謝いたしました。

私は打ち合わせのために、7日の午後、大庄コミュニティルームに向かいました。初めてのルームでしたので不安の気持ちもあり落ち着きませんでした。玄関の段差も気にすることなく快適にお部屋までさっそうと歩けました。打ち合わせも終わり帰りにはおトイレを使わせていただき勝手のよさに、満足な気持ちで後に致しました。

15日当日、案じられました天候も皆さんの熱い気持ちが伝わって晴天でとても嬉しくほっといたしました。ガレージの後ろに4台のテーブルをすえていただき《琴の音色 天までとどけ!》と、こんな思いで大正琴を弾かせていただきました。目の前で子供さんたちのはちきれそうな笑声と共に、たまらなくおいしそうなたこ焼きの臭いを今でも思い出しては楽しんでおります。後で教えて頂きましたが、多大のご支援の結果で現在がでございます。書面を通しまして深くお礼を申し上げます。

【発行人】 関西障害者定期刊行物協会

大阪市城東区中浜2-20-13 緑橋グリーンハイツアド企画気付

【編集人】 特定非営利活動法人尼崎身体障害者連盟福祉協会

理事長 伊東 勇

尼崎市稲葉荘3-9-26 尼崎市立身体障害者福祉会館内

【頒 価】 100円

一九八四年八月二十日 第三郵便物認可(毎日発行)
二〇〇八年八月二十五日 K S K P 通巻七九七九号